

まえがき

信州大学環境問題研究教育懇談会は昭和53年の発足以来、信州を具体的研究対象の場として、その環境問題を超学部的な立場から研究を続けてきている。これまでの7年間に研究の主テーマは「信州の自然環境モニタリングと環境科学の総合化に関する研究」から「信州の環境モニタリングと地域計画」に拡大一般化され、また地域計画を含めた将来構想への展開が試みられた。

さいわい本研究班の発足以来、つづけて文部省の特定研究の補助をうけることができ、本年度も1年間の研究業績のまとめとして「信州大学環境科学論集 第7号」を刊行するはこびとなった。

懇談会研究組織として研究者名簿に登録願っている方々は、8学部（教養部を含む）70名余にのぼり学際的研究組織として自由な討議の場をつくっている。本論文集には会員各位の非常なご協力により、19篇の論文をのせることができた。本懇談会々員相互の研究情報の交換にとどまらず、広くこの方面の数少ない総合的論文集として、学内外で評価されることはまことに喜ばしいこととおもっている。

この3年間は釘本が会のお世話をして来たが、学問の性質上1学部に偏ることは好ましいことではないので、60年度からは農学部の森本尚武教授に座長をお願いすることになった。大学院総合研究科の構想の中で環境科学は大きな役割を占めており、懇談の内容もかなり具体化してきている。本懇談会の活動が基礎となってその実現を見ることになればこれに過ぎる喜びはない。

信州大学環境問題研究教育懇談会

座長 釘 本 完